

ペット動物対策

1 対応状況

7月17日

- ・新潟県中越沖地震動物救済本部（県、獣医師会、動物愛護協会で構成）を設置

7月19日

- ・現地対策本部を柏崎保健所内に設置

○ 動物飼育に関する相談受付（19年8月2日 午後2時現在）

・フード等の提供	犬	76件、	ねこ	39件、	その他	1件
・飼育動物の健康	犬	21件、	ねこ	5件、	その他	4件
・一時預かり	犬	27件、	ねこ	16件、	その他	1件
・引取り	犬	1件、	ねこ	2件、		
・脱出届	犬	10件、	ねこ	17件、	その他	1件
・ケージ等貸出	犬	8件、	ねこ	1件、		

（合計） 犬 143件、 ねこ 80件、 その他 7件

○ 被災動物の一時預かり頭数（平成19年8月2日 午後2時現在）

・犬 28頭 / ねこ 6頭 / その他 1頭

○ 動物シェルターの設置

・2箇所設置（7月27日 / 8月7日（予定））

2 今後の対応予定

- 動物救済本部（状況を見ながら継続を検討）
- 現地対策本部（8月10日頃まで設置予定）
- 預かり動物の健康管理の徹底（獣医師会による定期健診等の実施）
- 仮設住宅での動物飼育希望者の把握と入居支援

第1回研究会

『石川県内保健師の派遣活動』

相木 直美（石川県健康福祉部健康推進課 参事）

2007年8月6日（月）

能登半島地震における保健師派遣調整にかかる県庁の対応について

石川県健康福祉部健康推進課
課参事 相木直美

地震による被害状況

- 1 地震の概要
発生日時 平成19年3月25日（日）9時42分頃
地震規模 マグニチュード 6.9
震度 震度6強 七尾市、輪島市、穴水町
震度6弱 志賀町、中能登町、能登町
- 2 被害状況
人的被害 死者 1人、重傷者 27人、軽傷者 291人
住家被害 全壊 590棟、半壊 1,263棟、一部損壊 12,193棟
- 3 ピーク時の避難状況(3月26日)
自主避難 2,624人（内、輪島市 2,214人）
避難所数 47ヶ所（内、輪島市 26ヶ所）
- 4 災害救助法適用市町の概況

	人口（人）	高齢者数（人）	高齢化率（%）
七尾市	61,871	16,423	27
輪島市	32,823	11,481	35
（旧輪島市）	25,301	7,941	31
（旧門前町）	7,522	3,540	47
珠洲市	18,050	6,740	37
志賀町	23,790	7,408	31
中能登町	18,959	5,163	27
穴水町	10,549	3,789	36
能登町	21,792	7,728	35
石川県	1,174,026	245,739	21

保健師による保健活動の概要

- 1 避難所での保健活動
活動時期 平成19年3月25日～4月29日（36日間）
活動体制 保健師または看護師2名1チームで2泊3日の交代制により避難所に常駐
活動者数 延べ518チーム（延べ1,036人）
活動者派遣元 県内：市町、県保健所、県庁、県立看護大学、県総合漢語専門学校、金沢大学、看護協会、（財）石川県成人病予防センター
県外：新潟県、富山県、福井県、新潟市、看護協会（富山、福井）
活動内容 避難住民の健康チェック、健康相談、感染症予防、エボラウイルス症候群予防、生活不活発病予防 等
- 2 在宅被災者の家庭訪問
・被災市町による要援護者（介護認定者、在宅酸素療養者、腎透析者等）の確認と対応
・県保健所による要支援者（難病患者、精神障害者等）の確認と対応
- 3 仮設住宅での保健活動
活動時期 平成19年4月29日～
活動場所 被害が甚大であった輪島市門前町の仮設住宅
活動従事者 在宅の保健師、看護師
活動内容 こころのケアを含む被災者の健康相談、健康教育等
- 4 被災者健康状況調査
調査対象 災害救助法適用7市町のうち、全壊・半壊世帯の18歳以上の被災者
ただし、仮設住宅入居者は全壊・半壊にかかわらず18歳以上全員
調査方法 調査員（保健師、看護師）による聞き取り調査
調査時期 平成19年6月、7月

第1回研究会

『他県からの保健師の派遣活動』

長谷川 まゆみ（福井県奥越健康福祉センター 次長）

2007年8月6日（月）

自然災害と派遣保健師活動 ～派遣保健師の経験から～

福井県奥越健康福祉センター 長谷川まゆみ

福井健康福祉センター
健康危機管理研修会より

能登半島地震にかかる 派遣保健師の活動

派遣体制

◆3月30日(金)18時 厚生労働省及び石川県から要請

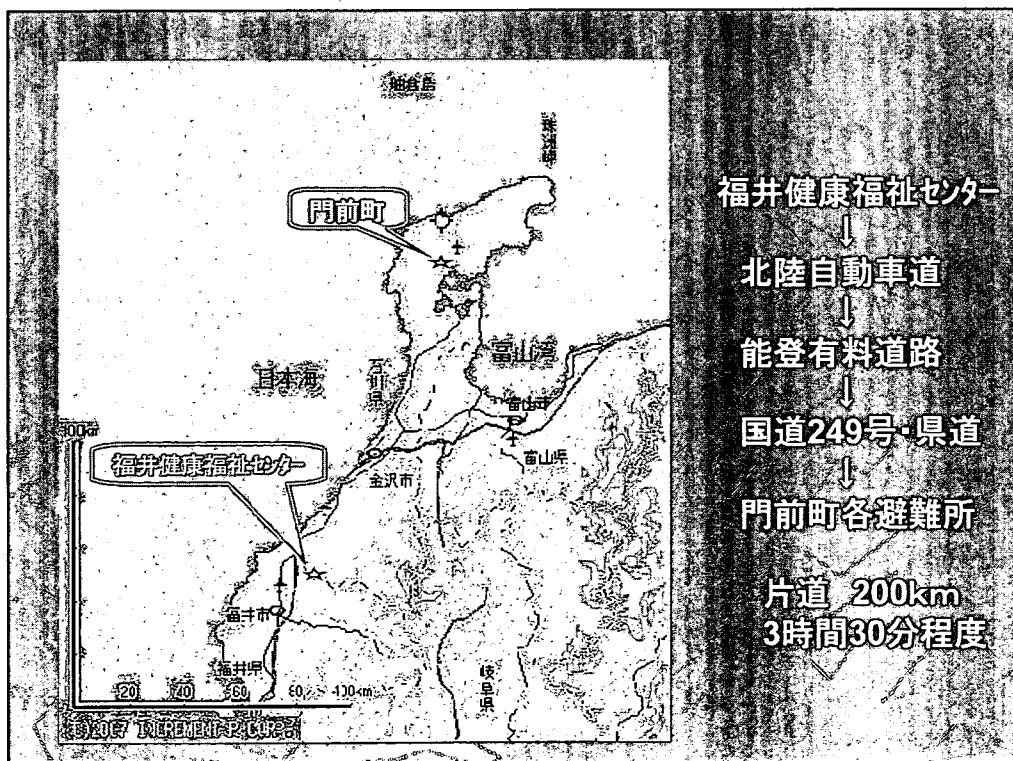
- 期間 4月1日～4月15日まで(目途)
- 体制 1回 各2名×3チーム 計6名(2泊3日)
- 実績 3チーム(6名)×6班
2チーム(4名)×1班

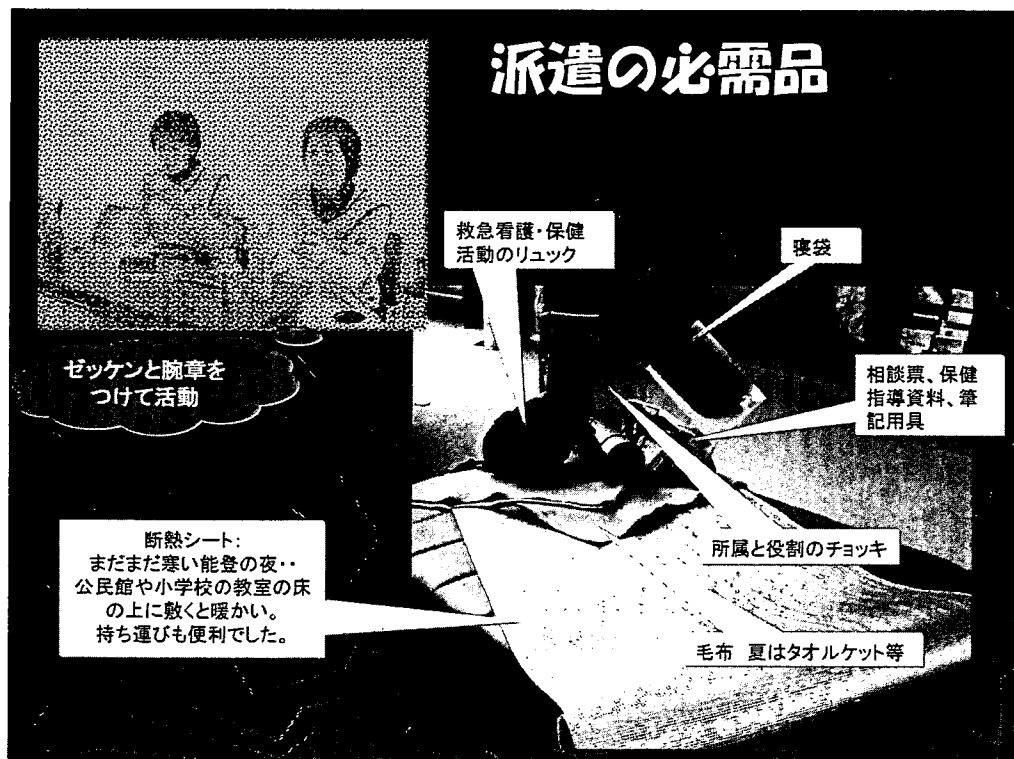
保健師 延40名派遣

福井8人、坂井6人、奥越6人

丹南10人、二州5人、若狭5人

運転手 延14名





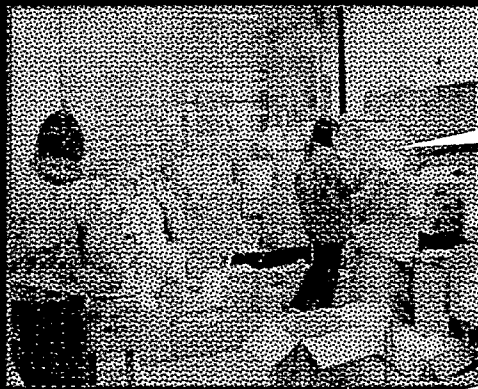
避難所での活動(福井県配置)

期間	第1班 4/1~3	第2班 4/3~5	第3班 4/5~7	第4班 4/7~9	第5班 4/9~11	第6班 4/11~13	第7班 4/13~15
派遣人数	6名	6名	6名	6名	6名	6名	4名
体制	3チーム	3チーム	2チーム	3チーム	3チーム	3チーム	2チーム
黒島公民館							
門前公民館	→						→
門前西小学校							
ビューサンセット							→
阿岸公民館							→

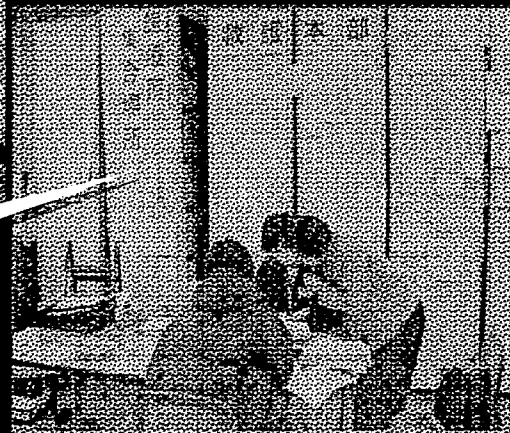
上気道感染・ノロ感染
患者の増加！！

ノロ集団感染！！門前
公民館保健師と合流

門前町総合支所一角の救護本部



* 衛生物品等の備蓄室
ミーティングに来所した際に持ち
帰っていました。(生活物資は別棟
の物資支援センターに備蓄)



* 救護本部が設置(事務所一角)
門前町保健師、保健所保健師、県担当
課職員が配置され、壁には付箋紙で入
手した情報が貼り付けてありました。



1日のスケジュール

- 6:00 健康チェック
- 9:00 門前総合支所全体ミーティングへ参加
各避難所を拠点に被災世帯への健康調査、家庭訪問
- 13:00 地域福祉課へ報告、各避難所の引継ぎ
各避難所を拠点に被災世帯への健康調査、家庭訪問
- 17:00 全体ミーティングへ参加（代表）
- 18:00 各県主管課へ報告
- 20:00 門前町総合支所本部への活動報告（FAX、TEL等）
派遣初期は、高齢者の介護、感染症対応にと、深夜も対応

避難所での主な活動(1)

【連絡調整、情報管理・共有化】

・対策本部

全体及び保健・看護スタッフとのミーティング

・避難所

公民館職員、自治会役員、民生委員、保健福祉関係者とのミーティング

・必要とされる保健・医療・福祉・ボランティアの要請

立ちミーティング・・・
初めの頃は、報告連絡に
1時間以上の時間を費や
したこともある。



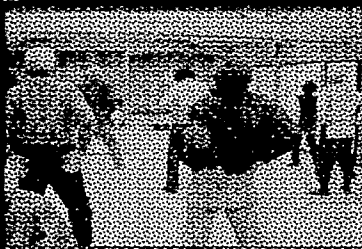
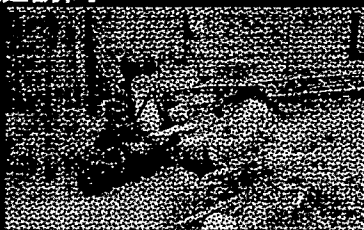
医師会会長の
山岸先生主導
の下・・・



避難所での主な活動(2)

【健康管理】

- ①健康問題の把握(健康相談)
- ②感染性胃腸炎・上気道感染の拡大防止
 - ・手洗い・うがいの徹底
 - ・感染予防の健康教育
 - ・換気、清掃促し、トイレ清掃等環境整備
- ③家庭訪問

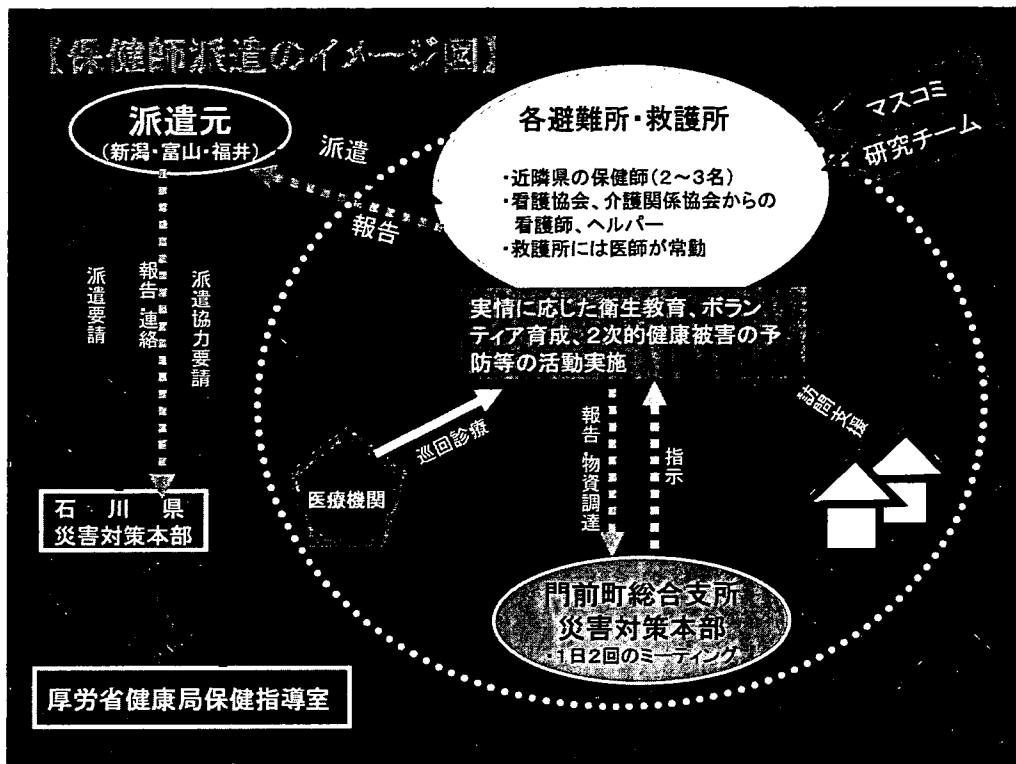


避難所での主な活動(3)

【環境・衛生面の管理】

- ①生活物資の調達
 - ・対策本部から、不足・必要物資を調達
- ②施設管理
 - ・避難所の灯油の補足管理、防火対策
 - ・環境整備
 - ・消毒
- ③食品管理
 - ・残飯処理等、食中毒予防





能登半島地震にかかる 派遣保健師の活動

◆体制

- * 避難所には1~2県の派遣保健師が配置
- * 他県の保健師とペア体制により地区活動 (ローテーション的に効果的だった)
- * 避難所において派遣保健師同士が引継ぎ

◆特徴的な活動

- * 感染性胃腸炎、上気道感染の拡大防止
- * セルフケア能力の向上(廃用症候群の発生予防)
- * 高齢者の生活支援(合併前は高齢化率45%)
- * 避難所への介護職員配置の提案

新潟県中越沖地震に かかる派遣保健師の活動

福井健康福祉センター → 北陸自動車道 → 柏崎市
片道 320km
5時間程度

派遣元には・・

◆厚生労働省健康局総務課保健指導室(長)から県に

* 7月16日深夜、派遣協力の照会文書(FAX) (第1報)

- ・派遣体制の一元的管理・調整
- ・被災地現地での保健師活動の概要と留意事項

* 保健指導室臨時ミーリングリスにより(顯回に、随時に)

- ・新潟県中越沖地震関連に関する連絡、情報提供
- ・保健指導(感染症発生予防、防災時生活機能低下予防マニュアル、エコミークラス症候群の予防等)に関する資料提供

◆新潟県知事から各都道府県知事に

* 7月17日 「新潟県中越沖地震にかかる被災地における保健師等の参加について(依頼)」文書

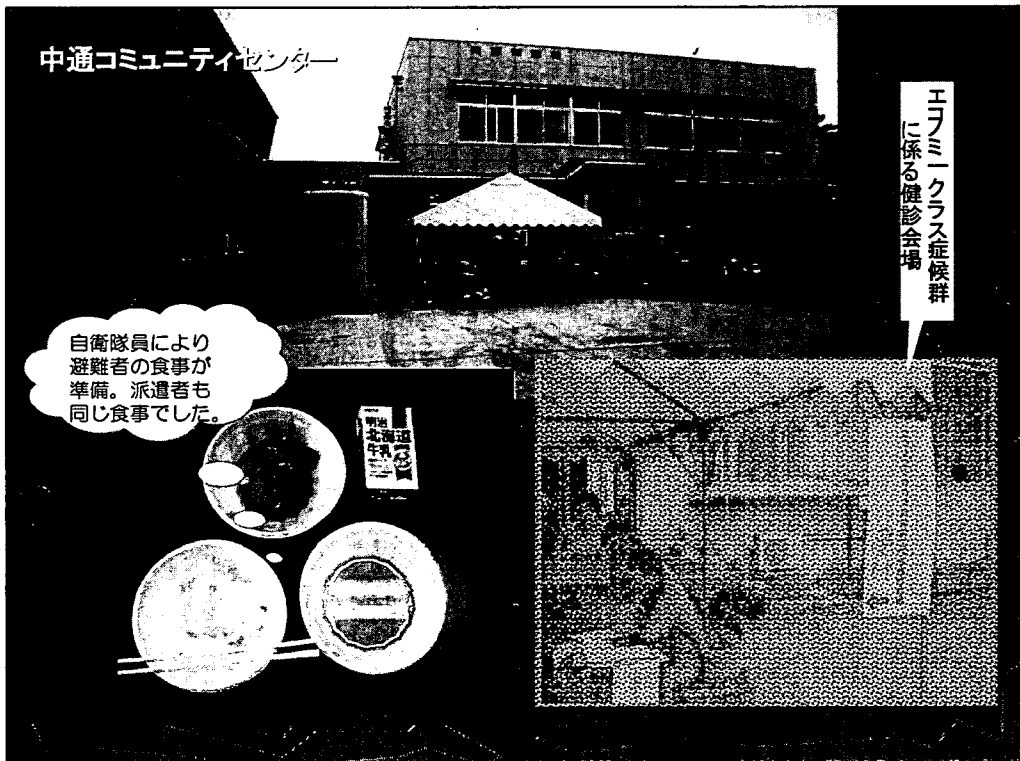
派遣元では・・

◆県主管課から各健康福祉センター（長）に

- * 7月17日、11時「新潟県中越沖地震にかかる保健師の派遣について」FAXによる依頼
- * 保健指導室臨時ミーリングリストによる連絡・情報提供の転送
- * 派遣に関する連絡事項が地域支援室長にメール（毎朝）

◆健康福祉センターでは

- * 7月17日、12時管理者で検討、派遣保健師の調整・決定
- * 地域支援長（総務管理者）、保健師管理者が職員に連絡・情報提供



派遣保健師は・・・

- ◆被災地の実情に応じた臨機応変な活動体制づくりと、自己完結型による活動
- ◆保健師活動は派遣者同士の引継ぎも予測されるが、地元職員への引継ぎも大切
- ◆一元的な情報管理・調整による派遣は、派遣元（県）の末端（保健所等）でも安心

◆第2回研究会概要

開催日	2007年10月26日(金)
開催時間	13:30～16:00
開催場所	愛媛県県民文化会館別館第11会議室
講演次第(敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『新潟県中越沖地震の経験を健康危機管理に生かす』 山崎 理 (新潟県 福祉保健部健康対策課 課長) ・ 『自然災害と精神医療』 金 吉晴 (国立精神神経センター 部長) ・ 『福井豪雨と保健師活動 ～被災者の訴えの経時的変化と「こころのケア」～』 長谷川 まゆみ (福井県 奥越健康福祉センター 次長) ・ 『災害と派遣保健師の活動 ～新潟県中越沖地震等の体験から～』 池田 範子 (福井県奥越健康福祉センター 主任)

第2回研究会

『新潟県中越沖地震の経験を 健康危機管理に生かす』

山崎 理（新潟県福祉保健部健康対策課 課長）

2007年10月26日（月）

新潟県中越沖地震の経験を 健康危機管理に生かす

新潟県福祉保健部健康対策課長
山崎 理

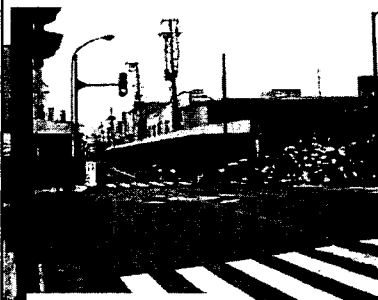
はじめに

- 中越沖地震の発生に際し、全国の都道府県、市区町村から多くのご支援を頂戴し、本当にありがとうございました。
- 被害の最も大きかった柏崎地域、また、その他の被災地においても、現在、着実に復興に向かっております。
- 引き続き様々な形でのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

中越沖地震の視点 (ポイント: 私見)

- 1 避難所中心ではない
- 2 原発所在地での地震
- 3 健康福祉ニーズ調査の実施
- 4 「現地保健福祉本部」の設置
- 5 現地の「立ち直り速度」と周囲の速度

○新潟県中越沖地震の概要



東本町えんま通り



柏崎小学校

